

低学年分科会

第1学年

ゲーム「ねらって あてて ハッピーゲーム」



目指す児童像

- ・きまりを守って前向きに取り組む児童
- ・自分の思いや考えを友達に伝えようとする児童

運動の特性

- ・集団対集団で、点を取るために友達と協力する運動遊び
- ・競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動遊び

インクルーシブ型授業づくりの手だて

主体性を引き出す目標設定

- ・全員がボールに必ず触れ、楽しむことを目標とする。

協働的な学びを実現するためのグループ編成

- ・技能レベルと話す・聞く力を考慮したグループを編成する。

成果（○）と課題（△）

- ボールを投げて運動を楽しむことができた。
- 作戦を考える楽しさを感じることができた。
- △全員がボールを投げることを重視したため、ゲームのルールが分かりにくくなった。

研究の重点2

高学年分科会

第5学年・たけのこ学級

体づくり運動 / 体の動きを高める運動 「にしす運動図鑑を作ろう」



目指す児童像

- ・自らの課題や友達と共通する課題の解決に向けて運動する児童
- ・友達と協力して、あらゆる課題の解決に向かう児童

運動の特性

- ・中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動
- ・体を動かす楽しさや喜びに触れることができる運動

インクルーシブ型授業づくりの手だて

主体性を引き出す目標設定

- ・「にしす運動図鑑」の作成を通して、誰もが楽しめることを目標とする。

学習内容の焦点化

- ・自由なアイデアを出し合って交流できるよう、「巧みさの5つの要素」や「4つの条件」などを提示する。

協働的な学びを実現するためのグループ編成

- ・通常の学級と特別支援学級の児童それぞれに配慮したグループを編成する。

成果（○）と課題（△）

- 誰もが楽しめる運動を自分たちで考えることができ、どの児童も意欲的に取り組むことができた。
- 自由なアイデアを基に、一人一人の体力に応じた工夫を行うことができた。
- △配慮したグループ編成を行ったものの、例を示すなど、活発な活動を継続するための教員の支援がなければ、工夫を出せないグループもあった。